

## 前立腺肥大症治療に新たな選択肢

### ⇒ 経尿道的水蒸気治療（Water vapor energy therapy: WAVE）

前立腺肥大症は中高年にみられる進行性の疾患であり、「尿の回数が多い」「尿の勢いが弱い」「尿漏れ」などの症状をきたし、日常生活のストレスにつながります。

治療として、まず薬物療法を行います。改善が乏しい場合は手術療法をお勧めします<sup>1)</sup>。従来の手術療法（電気メスやレーザーによる内視鏡手術など）は効果的でありますが、高齢や全身状態不良（内科の合併症や抗凝固薬の内服など）のため、手術の負担が大きく従来の手術療法が困難な場合に低侵襲的な手術療法 WAVE 療法が適用となります（2022 年に保険適用）。

当院では、WAVE 療法を 2024 年 2 月より導入いたしました。

<メリット>

1. 身体への負担減
2. 短時間での手術（手術時間: 10 分前後）
3. 内視鏡手術のため皮膚切開なし
4. 短期間入院（2-7 日）
5. 尿道粘膜や性機能を温存

### <方法>

- ・ 麻酔: 主に腰椎麻酔や全身麻酔
- ・ 手技内容: 経尿道的にデバイスのニードルを前立腺肥大部に穿刺 (1 shot; 9 秒間)  
し、噴霧される約 103℃ の水蒸気が持つ熱エネルギーを利用して前立腺組織を壊死させ、閉塞を改善させる。

Figure1. WAVE 治療方法<sup>2)</sup>



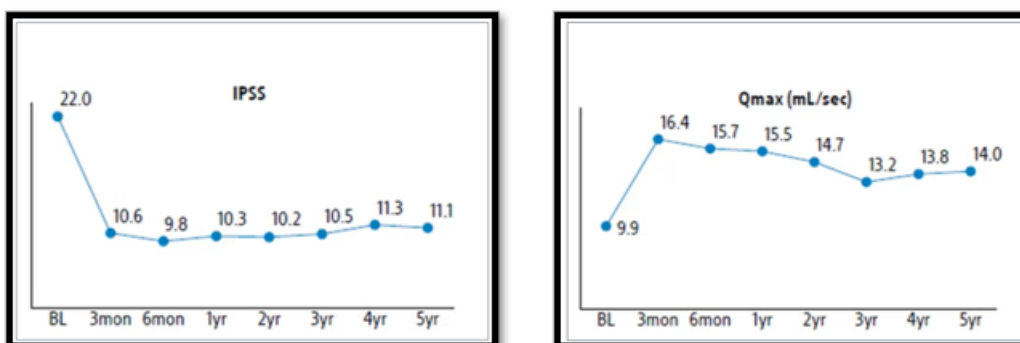
### <術後経過>

術後尿道カテーテル留置が必要であり、カテーテル留置期間は 3-7 日程度となります (入院前に尿道カテーテル留置している方は 1 か月程度)。術後に少量の血尿や排尿痛や排尿困難感を一過性に生じることがあります。治療効果は 1 か月前後から 3 か月にかけて現れてきます。

<術後成績>

5年経過の治療後の排尿機能の改善率も良好であり、再手術率も5%未満と低くあります<sup>3)</sup>。また、手術前のカテーテル管理の方もカテーテルフリーが70%の割合であり自排尿可能となっています<sup>4)</sup>。当院の成績も、同等の効果を示しており、重篤な合併症も生じておりません。今後、大きく普及していく治療のひとつと考えられます。

Figure2. 5年経過の治療成績<sup>3)</sup>



(IPSS : 排尿の質問票、 Qmax : 尿流量の勢い)

<引用・参考文献>

- 1) Coyne KS, Sexton CC, Wein AJ et al: The prevalence of lower urinary tract symptoms (LUTS) in the USA, the UK and Sweden: results from the epidemiology of LUTS (EpiLUTS) study. BJU Int 2009; 104: 352 – 60
- 2) Boston Scientific 水蒸気をもたらす低侵襲前立腺肥大症治療 より
- 3) Kevin T, Marc CG, Claus GR et al: Final 5-Year Outcomes of the Multicenter Randomized Sham-Controlled Trial of a Water Vapor Thermal Therapy for Treatment of Moderate to Severe Lower Urinary Tract Symptoms Secondary to Benign Prostatic Hyperplasia. J Urol 2021; 206(3): 715-24
- 4) Kevin T, Bradley H, Randolph JB. Water vapor thermal therapy to alleviate catheter-dependent urinary retention secondary to benign prostatic hyperplasia. Prostate Cancer and Prostatic Diseases 2020; 23: 303–8